

第51回SGRAフォーラム

今、再び平和について

— 平和のための東アジア知識人連帯を考える —



2016年7月16日(土) 13:30~17:30
東京国際フォーラム G701号室

《プログラム》

総合司会: 李恩民 LI Enmin 桜美林大学リベラルアーツ群教授

問題提起1. 平和問題談話会と東アジア 南基正 NAM Kijeong ソウル大学日本研究所副教授

問題提起2. 東アジアにおけるパワーシフトと知識人の役割 木宮正史 KIMIYA Tadashi 東京大学大学院総合文化研究科教授

報告1. 韓国平和論議の展開と課題 朴榮濬 PARK Youngjune 韓国国防大学校安全保障大学院教授

報告2. 中国知識人の平和認識 宋均營 SONG Junying 中国国際問題研究院アジア太平洋研究所副所長

報告3. 台湾社会における「平和論」の特徴と中台関係 林泉忠 LIM John Chuantiong 台湾中央研究院近代史研究所副研究員

報告4. 日本の知識人と平和の問題 都築勉 TSUZUKI Tsutomu 信州大学経済学部教授

パネルディスカッション:

討論者: 上記発表者

劉傑 LIU Jie 早稲田大学社会科学総合学術院教授 他

《フォーラムの趣旨》

今回のフォーラムは、混迷を深める東アジアの国際情勢に対して、国際政治や安全保障論の方向からの現状分析やシナリオの提示ではなく、平和研究または平和論という方向からの問題提起として位置付け、議論したい。そのためには、東アジア各国における「平和論」の現状を確認し、各国で「何よりも平和を優先する考え方」が各個撃破されている現状を検証すると共に、こうした現状に風穴をあけるためにはいかなる方法があるのか、そのために学問をする者として、知識人として何ができるのかを議論する場としたい。

そして、この地域の研究者たちが知識エンジニアになりつつある現状、あるいは、安全保障の専門家たちに平和が呪縛されている現実に対して、平和を語る知識人としての研究者の役割、東アジアの知識人の連帯の意義を考えたい。

《問題提起・報告の概要》

<問題提起1> 「平和問題談話会と東アジア：日本の経験は東アジアの公共財となり得るか」

南基正 NAM Kijeong (ソウル大学日本研究所副教授)

戦後日本の平和主義や平和運動は、戦後日本の平和的発展に一定の肯定的な役割を演じてきたが、国内外から「一国平和主義」という批判的レッテルを貼られて久しい。この報告では、日本の戦後平和主義の正典の地位を得ていた、それゆえに批判的になってしまった平和問題談話会の平和主義を再検討することで、日本の平和主義を東アジアの公共財にする可能性を探ってみたい。

<問題提起2> 「東アジアにおけるパワーシフトと知識人の役割」

木宮正史 KIMIYA Tadashi (東京大学大学院総合文化研究科教授)

東アジアの国際情勢は、それぞれ程度や質における違いはあるが、「民主化」という変化を共有しながらも、①中国の大国化、②日韓関係の同質的競争化、③南北(朝鮮)体制競争における韓国優位の決着、によって構成されるパワーシフトに直面する。この報告では、こうした現状をいかに理解し、どのように取り組むのかを考察する。

<報告1> 「韓国平和論議の展開と課題：民族分断と東アジア対立を越えて」

朴栄濬 PARK Youngjune (韓国国防大学校安全保障大学院教授)

平和をどのように認識し、平和の条件をどのように造るべきかについては、現実主義者と自由主義者の間に重点の差が存在してきた。この報告では、韓国社会における平和研究の二つの流れを辿りながら、此の流れが、政策的に韓国の政治外交、特に北朝鮮や東アジアに対する外交政策に影響を与えてきたのかを検討する。

<報告2> 「中国知識人の平和認識」

宋均営 SONG Jungying (中国国際問題研究院アジア太平洋研究所副所長)

東アジアにおける国際関係が変貌しつつある。中国の台頭に伴って米国はリバランス政策を推し進めてきた。日本、韓国とアセアンの諸国も新しい安保政策を打ち出しこの地域の軍事バランスにおける優位を確保しようとしている。こういう問題意識からこの報告では現代中国の知識人たちの平和に対する認識を考察する。

<報告3> 「台湾社会における『平和論』の特徴と中台関係」

林泉忠 LIM John Chuantiong (台湾中央研究院近代史研究所副研究員)

台湾にとって平和に関する最大の課題は、中国の脅威からどのようにして台湾を守ることができるかということだ。中国が台頭し、東アジアの秩序が変わろうとしている今、「平和」を真剣に語り合うことが求められている。

<報告4> 「日本の知識人と平和の問題」

都築勉 TSUZUKI Tsutomu (信州大学経済学部教授)

戦後日本の平和論を築いたのは、平和問題談話会に集う知識人たちが冷戦の激化と「逆コース」の時代に3度発表した声明だった。冷戦の終焉は平和論の背景を大きく変えたが、民主主義だけでなく、国家権力を制限する自由主義もしくは立憲主義は確かに重要であるが、ただ憲法擁護を言うのみならず、平和憲法の本質に基づいて、我々は今何をすべきかが求められている。

《参加申し込み》

- 参加費：無料
- 参加申込：当日会場での参加受付もいたしますが、準備の都合上、なるべく事前に、
名前・所属・e-mailをご記入の上、渥美国際交流財団SGRAまでお申し込みください。
e-mail: sgra-office@aisf.or.jp FAX:03-3943-1512

《懇親会》フォーラム終了後、講師を囲んだ「懇親会」を開催します。フォーラム参加と合わせてお申し込みください。懇親会参加費：2000円 (SGRA 会員 1000円)